

2/7
赤旗

岸田文雄首相の記者会見が一ヶ月間途絶えていました。新型コロナウイルスの感染拡大時に安倍晋三元首相と菅義偉前首相が頻繁に会見していたことを考えれば、過去最大の感染第6波が続く中でのこの空白は異例。「丁寧な説明」を囁いた就任時の言葉に疑問符が付きかねない状況です。

松野博一官房長官は4日の記者会見で、首相会見の予定を問われ、「情報発信は首相だけでなく、閣僚からも適時適切になされており」と述べるとともに、

首相の会見は一月4

岸田首相、1ヶ月会見せず

第6波のなか「丁寧な説明」に疑問

岸田は、重慶市で行った直例の「年頭記者会見」が最後。以来、国内では感染が急拡大。今月3日は一日当たりの新規感染者が10万人を初めて超えましたが、首相は会見を開きませんでした。感染拡大時には毎日3~4回会見するよりも少ない安堵感が対照的です。

首相が代わりに多用しているのが、官邸出入りする際など、立ち止まって記者団の質問に応じる「ホワイトカード取材」。今年に入り、「ホワイトカード」は14回行っており、官邸は「ホワイトカード記者会見は形態の違い

はあるが、しっかりとじ回転を持ったもの」（磯崎仁彦官房副長官）と主張しています。

以上は北朝鮮のミサイル発射などコロナ以外が主要テーマ。時間も短ければ一分未満、長くても30分弱です。民に直接語りかける頭発音もないケースが多く、テレビ中継がある限りません。

3日と「まん延防止等重点措置」の和歌山県適用を決めた際に、岸田は全ての説明を担当閣僚に譲ね、ぶら下がりこすり心じめました。

（記事）